

2016年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	建築・デザイン学科						
科目名	製品企画概論						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年次前期		
必修・選択の別	デザインコース: 選択必修科目 建築工学コース・建築コース: 選択科目						
担当者	松本誠一						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品開発のための企画を立てる方法を修得する。</li> <li>・イメージスケールマップの構造を理解することができる。</li> <li>・イメージスケールマップを作成して、製品開発を行うことができる。</li> </ul>						
日程と内容	第1回 4/11 導入講義 授業の概要と進め方の説明 成績評価の方法 第2回 4/18 製品の企画を立てるとは デザインコンセプト 第3回 4/25 イメージスケールマップとは イメージスケールマップの実例 第4回 5/2 形容詞を用いたイメージスケールマップの作成1 第5回 5/9 形容詞を用いたイメージスケールマップの作成2 第6回 5/16 三色組み合わせを用いたイメージスケールマップの作成1 第7回 5/23 三色組み合わせを用いたイメージスケールマップの作成2 第8回 5/30 三色組み合わせを用いたイメージスケールマップの作成3 第9回 6/6 家具(小椅子)のイメージスケールマップの作成1 第10回 6/13 家具(小椅子)のイメージスケールマップの作成2 第11回 6/20 家具(小椅子)のイメージスケールマップの作成3 第12回 6/27 開発のためのキーワード抽出 第13回 6/27 デザイン展開1 第14回 7/4 デザイン展開2 第15回 7/11 プレゼンテーション1 ポートフォリオ提出 第16回 7/25 プレゼンテーション2 ポートフォリオ提出						
成績評価基準	定期試験 臨時試験 報告書・レポート 課題 演習	80%	実技 部外評価 プレゼンテーション 計	20%	100%		
授業到達目標の達成度	単位取得した学生は、イメージスケールマップの構造を理解し、イメージスケールマップを作成して製品開発を行うことができた。到達目標に到達している。単位取得できなかった学生は、途中で授業放棄した学生である。						
反省点	授業形態は座学であるが、手を動かす(マップの作成・デザイン展開)作業を行っている。第1回の導入講義で受講生に説明しているのに、学生の理解は得られていると判断している。座学で理解するよりも、実際に手を動かして理解・修得する方が、役立つであろうと考えて行ったものである。この点の理解を学生に、さらに周知したい。						
来年度の計画	今年度と同様の内容を行う。						
授業評価アンケートに対するコメント	設問14の10点法による評価は8.1。表記すべき学生の意見はなし。						
履修登録者数	23名	定期試験 受験者数	20名	合格者数	20名	合格率	100%